

水野市長のお姿から

予想外の展開でした。瑞浪北中の生徒たちの取り組みが、毎日公務でお忙しい水野市長まで動かしてしまったのです。水野市長も私も同じ「長」がつく立場ですが、市長は私とは比べものにならないくらい大変です。スケジュールもびっしり。おまけに分刻み。簡単に面会時間を見出すことはできません。

そんな水野市長が、北中生の鉢植えのプレゼントを受け取るために時間を作ってくださいました。これを当たり前前に考えていてはいけません。わざわざ出てきて受け取ってくださいましたことに感謝せよということではありません。それだけ市長を初めとする瑞浪市が、若者を大切にしてくださいっているということを知ってほしいのです。

市役所を訪れた生徒会執行部一人一人から、鉢植えを受け取ってくださった水野市長は、お礼とねぎらいの言葉、そして、更なる期待を彼らにかけてくださいました。そして、気さくに写真撮影に応じ、終始笑顔で接してくださいました。その様子を見ていた私は、改めて若者を大切にされる市長や市の姿勢をあらがたく思いました。

瑞浪市と言えば、成人式が有名です。平成二十七年には「成人式大賞2015」で「大賞」を、翌二十八には「貢献賞」を受賞しています。その時から、実行委員を成人から募り、若者の意見を反映させた素晴らしい取り組みが続いています。

瑞浪北中学校の校舎もそうです。人口が四万人を切る、決して大きくない瑞浪市が、多額の予算を投入して、新築では全国初のスーパーエコスクールを作り上げました。三年目を迎えた今では、このことがクロースアップされなくなってきました。が、それではいけないと私は思っています。若者のことを大切にしてくださいさる市長や市の思いが、北中の校舎に込められていることを決して忘れてはいけません。「若者ファースト」で考えられていることを常に意識しなければいけません。

水野市長が今回わざわざ鉢植えを受け取ってくださいましたということは、裏を返せば、市長が若者に大きな期待をかけてくださっているということです。これからの瑞浪市には若者の力が必要だと思ってくださいさっているということです。

将来を担う若者たちに、バトンを渡そうと思つて頑張ってみえる市長の思いが、忙しい公務の合間を縫って受け取ってくださいました姿に出ているように私には見えました。感謝よりも、自分たちにかける期待を感じてほしい……私も市長に近い世代ですので、思いは市長と同じです。

(七月五日 記)

